

審査会委員評価

○事業の良いと思われる点

- ・特に、工夫した点として、時代背景をスライドショーで説明したという取り組みは評価したい。
- ・成蹊大学の調査を受け入れていただいたことは評価できる。
- ・事業の目的を達成したと自信と誇りをもって言えることから、舞台を通じて公演者と観客がお互いに郷土愛を増していること。
- ・劇団が地元で愛されている。
- ・劇団がやりがいを感じている。
- ・継続できているむら芝居として、他地域の希望となっている。
- ・全国的にむら芝居が衰退していく中でよく健闘していると思われます。
- ・北名古屋市のユニークな市民活動として継続をねがいます。
- ・市民に考えてもらうきっかけとして、近い将来起こりうる南海トラフ巨大地震を意識した内容にしたところは良いと思う。

○事業についてのアドバイス、期待する点

- ・スライドショーでの説明にも関わらず、ストーリーが難しいとの反応があったという。定性的な評価ではなく、定量的な、例えば、アンケート調査、満足度調査をすべきではないか。
- ・成蹊大学の調査から、演劇活動存続のためのコミュニティとの関係構築に関し、なにか示唆は得られたのでしょうか。そこを知りたいです。
- ・「寄り添い方」が問題だということは判ったが、公演継続のための具体策がほしいところである。
- ・令和2年度は何とかなつたみたいだが、補助金頼みでは、存続が危ぶまれる。「投げ銭」はどうか？ おひねり1万円では少なすぎないか。
- ・自己資金づくりの工夫】大災害と市民力、地域への愛着がテーマの公演を続けていくのであれば、同じ目的を持った団体や企業とつながって協力し合える関係を築くことを考えてみてはどうか。自分たちの強みを他の活動で活かす、強みでサポートするなど、公演以外でも貢献できると北名古屋でのネットワークが生まれ、広告掲載や協賛を得ることにつながると思う。
- ・他の組織からの補助金があるということで市民協働推進事業の補助金が削られています、市民に無料でとどけたいという思いが強く、台本作成、衣装準備など組織の人の努力に支えられているところが強いのでなんとか満額支給できないものか。
- ・むら芝居の文化を地域に残すため、財政面の課題を是非とも好転させてほしいと思う。